

佳作

## 希望の花

東京都 暁星中学校一年 岩瀬 侑晟

今年もまた家のベランダに八世目のひまわりが咲いた。

僕は小学四年生の時に学校の友達と東日本大震災の被災地である宮城県石巻市に行った。そこで多くの被災者の方を取材し友達と多くの新聞を書き上げた。

僕は取材をしていく中で、ある人に会った。その人は、自分自身も被災し会社が津波にのみ込まれてしまった黒沢健一さんだ。震災から二週間ほどは絶望していたという黒沢さんだったが「負けたくない気持ち」を形にしたい」という思いから『がんばろう！石巻』と書かれた看板を建てた。その看板は津波で流れて来た木を使っていてそれは石巻の人達へのメッセージだ。今では看板の近くで被災者への追悼行事が行われている。黒沢さんが建てた『がんば

ろう！石巻』の看板は、絶望していた石巻の希望の光となっている。

当時、看板を作った頑張っていた黒沢さんだったが、希望の道が見えて来ないと諦めかけていたという。そんな時に看板から小さなひまわりの芽が出ていた。黒沢さんは成長していくそのひまわりを、曲がっても風でゆられても立ち直っていた事から『ど根性ひまわり』と名付けた。その夏ひまわりから百五十粒ほどの種が取れた。二世が欲しいというメッセージを受け、黒沢さんは希望者に種を分けた。今では北海道から沖縄まではもちろん、黒沢さんの努力もありブラジルでもど根性ひまわりが咲いている。全国で咲いているど根性ひまわりは、東日本大震災で被災した方だけでなく他の災害で被災した方達にも希望や勇気を与え続けている。広島市の土砂災害の跡地にまかれたど根性ひまわりは、大きくなるにつれ、被災した方は「くよくよしちゃ駄目」と言われている気がしたという。また、熊本や大分の震災を経験した方は、「災害はいつどこで起きるか分からない。ひまわりを見て思い返してほしい」と庭先にど根性ひまわりの輪を広げた。

黒沢さんは、ど根性ひまわりの種を通じて、人が

支え合う心の大切さを伝えて行ったのだろう。

今年『がんばろう！石巻』の看板の回りは八世目を迎える百本を越すひまわりが埋めつくしている。

僕は、黒沢さんが「負けたくない思いを形にしたい」という思いや、ど根性ひまわりの種を通じて東日本大震災の事を世界中へ伝えたいという思いに心を動かされた。

僕は、この先もずっと黒沢さんが広めた『ど根性ひまわり』が、誰かの希望となる事を願いつづけている。そして、僕が友達にあげた種も、きっと希望の花になっていることだろう。